

ストリングの基礎知識

第45回

今回解説してくれるのは



野口大貴

(テニスサポートセンター仙川店)

テニス歴14年。「お客様にあったセッティングを見つけます。ぜひ、お店に来てご相談ください」と語る。

知っているようで、あまり知られていないストリングのこと。このコーナーでは、読者から寄せられた素朴な疑問を、プロのストリンガーに答えてもらいました。皆さんのテニスライフ向上に役立ててください

スピンのかかりやすい形状と、冬の設定について

多角形ストリングは、メーカーによって様々な形状が存在する



丸型より多角形ポリストリングの方が基本的にはスピンのかかりやすいです。その理由ですが、多角形ポリストリングは、ボールを捉える「角」があるぶん、食いつき感が上がり、引っかかりが強くなり、打ち出し角度も上がります。ただし、食いつくぶん、丸型のストリングよりも弾き感やパワーをロスしやすく、切れやすいなどのデメリットもあります。多角形のストリングに初

基本的には多角形だが、**スイング次第では丸形も**

Q ボールにスピンをかけたい場合は、多角形のポリストリングを張るのが一番ですか？
(テニス歴5年 / 30代女性)

寒い時期は、気温の高い時期に比べ、ボールがいつもより固く、弾まなくなりますが、ストリングも夏の間は伸びやすくなりますが、冬になると固くなります。いつもより弾まないボールをいつもより固いストリングで打つため、どうしてもボールが「飛ばなく」なります。そこで、寒くなる時期には、**テニションを下げてより飛ばないようにする**

Q 寒い時期ですが、ストリングに気温はどう影響しますか？設定は調整すべきですか？
(テニス歴10年 / 50代男性)

めて挑戦する際は、テニションを2〜3ポンド変えるなどの調整をお勧めします。ただし、これらは打ち方によっても変わってきます。スイングがフラット系であれば、多角形ストリングの方がスピンのかかりやすいのですが、スピン系のスイング（アッパースイング）の場合、丸型のストリングの方がスナッチバックが起きやすく、スピンのかかりやすいです。女性の場合、スピン系のスイングは腕への負担が大きいため、多角形のストリングを選んで、フラット系で打つ方が楽にスピンのかかりやすいです。

環境によって設定を変えて、プレーの質を保つようにしよう

ストリング都市伝説

グリップが2つあるラケットが存在する?!

あります。グリップが2股になっているラケットが存在し、しかもテニス協会のルールに沿っているので大会でも使用可能です。ちなみに、2008年〜10年には、ブライアン・パディストーンというアメリカ人選手がこのラケットを使用して、ATPチャレンジャーツアーのダブルスで4タイトルを挙げる活躍を見せました。



ダブルスでの4タイトルのうち2タイトルは、同じく2股ラケットを使用する兄のダン・パディストーンと獲得したものだ

ストリングのテニションを2〜4ポンド下げることをお勧めします。テニションを下げることで、ボールがより飛ばようになります。また、同じストリング

なら太いものよりも細かい方が弾きが良くなるため、テニションと合わせて細ゲージのストリングに変える方法もあります。ただし、ゲージを変えると打感にも大きく影響が出るため、基本的には、テニションを2〜4ポンド下げの方が多数派です。皆さんご存じのように、昨年の全仏オープンでは通常の5月開催から10月開催に変更となり、例年よりも気温が低かったため、多くの選手がセッティングを変えました。男子シングルス優勝のナダル選手は、気温が変わっても常に同じテニションで張ることでも有名ですが、今大会では1ポンド強テニションを下げ、飛びやすいセッティングで臨んだそうです。



環境によって設定を変えて、プレーの質を保つようにしよう